

公認山岳コーチ3
資格概要

2019年4月1日現在

主催		公益財団法人日本スポーツ協会 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会	
養成目的		全国レベルにおいて、登山者全体に厳冬期を含む積雪期、無雪期を問わず安全な登山が指導出来る指導者を育成する。	
役割		全国レベルでの登山全体の普及に努め、日本山岳協会の講習会・研修会、文登研の研修会で講師が出来ること。本州3,000m級山岳地帯において積雪期登山のリーダー候補者に指導が出来ること。	
養成講習会に係る内容	受講条件	上級指導員資格取得後5年以上経過している者。または受講年度の4月1日現在満25歳以上で都道府県山岳連盟(協会)に所属し、同連盟が認める者で下記の実績のいずれかを満たす者。 (1)国内外を問わず、夏冬を問わず、著名ルートを第5等以内で登っていること。 (2)文部科学省登山研究所講師5年以上。 (3)7000m以上の高峰の登頂者、但しその時の役割は登攀隊長以上。 日本山岳協会が認めれば専門科目は1、2のレベルを乗り越えて受講も可能。	
	受講科目	共通科目	共通科目Ⅲ(150h)
		専門科目	山岳コーチ3専門科目(60h) ※別紙カリキュラム表参照
	受講料	共通科目	共通科目Ⅲ:20000円(税抜)／教師:56000円(税別)※別途リファレンスブック代:3000円(税抜)
		専門科目	競技団体によって別途定める
		スタートコーチ	円()
実施方法	共通科目	別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する	
	専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ■講習会 カリキュラム(60時間)に基づき、JMSCAが直接集合講習会と通信講習(レポート)により開催する。実際の実施計画については、JMSCAとJSPOとの相談の上実施する。 ■検定試験 JMSCA指導委員会が作成・出題し、筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定とする。 ■審査 合格者の判定は筆記試験、レポート評価、技能検定の総合判定結果を基に、JMSCA指導委員会で審査の上、原則として満点の6割以上を合格とする。 ■免除要件 	
登録に係る内容	登録料(4年間)	基本登録料:10,000円	
		資格別登録料: 円	
		初期登録手数料(初回登録時のみ):3,000円	
更新登録要件	資格登録有効期限の6か月までに、最低1回は、JMSCAが定める研修会またはJSPO(都道府県体育協会が実施する(認める)研修を含む)が実施する研修を受けないといけない。		
特記事項			

公認山岳コーチ3

2019年4月1日現在

区分	カリキュラム内容		時間数		
	No.	科目	集合	その他	計
① 基礎理論 (総合的に)	①	指導者と岳連、日山協の組織	2.00 h	0.00 h	2.00 h
	②	登山医学(運動生理、ドーピングなど)	2.00 h	0.00 h	2.00 h
	③	積雪期の登山(積雪と雪崩を中心に)	0.00 h	2.00 h	2.00 h
	④	登攀技術(確保理論、グレードの理解を中心に)	0.00 h	2.00 h	2.00 h
	⑤	遭難対策(セルフレスキュー・チームレスキュー)	0.00 h	3.00 h	3.00 h
	⑥	指導法、指導者の心構え	2.00 h	0.00 h	2.00 h
	⑦	法律(山岳事故、リーダー責任など具体例の研究)	0.00 h	2.00 h	2.00 h
	⑧	山岳競争(大会の種類、運営など)	2.00 h	0.00 h	2.00 h
		小 計	8.00 h	9.00 h	17.00 h
② 実技・指導実習 (登攀・氷雪)	①	積雪期の歩行技術(ラッセル、ルート選定含む)	2.00h	0.00h	2.00 h
	②	積雪期の生活技術(簡易露営、雪洞含む)	4.00h	0.00h	4.00 h
	③	登攀技術(自然の岩場にて登攀・確保全般及び用具など)	4.00h	4.00h	8.00 h
	④	氷雪技術(登攀・確保全般及び用具など)	4.00h	4.00h	8.00 h
	⑤	山岳スキー技術(ルート選定、歩行、滑降など総合的に)	5.00h	0.00h	5.00 h
	⑥	登攀時の遭難対策(連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー)	5.00h	1.00h	6.00 h
	⑦	積雪期の遭難対策(連絡、捜索、搬送実習などセルフレスキュー)	8.00h	2.00h	10.00 h
		小 計	32.00 h	11.00 h	43.00 h
		40.00 h	20.00 h	60.00 h	